

ちぐさ福祉ネットワーク

第3号



編集:千種小学校区小域福祉ネットワーク事務局 発行責任者:千種小学校区小域福祉ネットワーク 会長:杉山興司

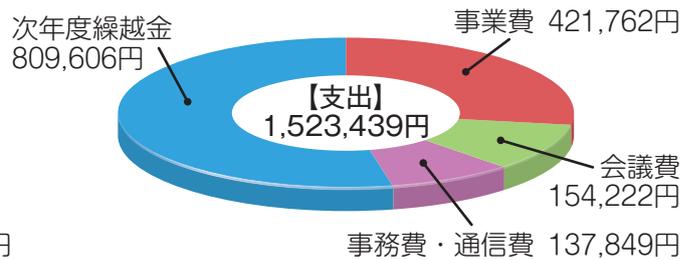
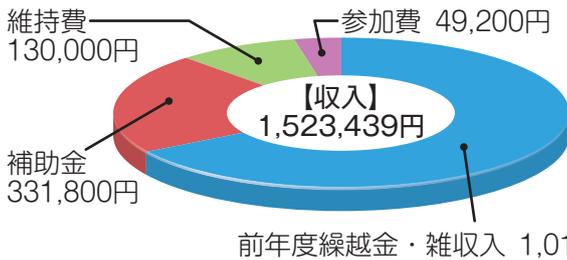
平成30年度千種小学校区小域福祉ネットワーク総会

平成31年4月21日(日)に、千種小学校区小域福祉ネットワークの総会が、千種コミュニティセンターで開かれました。

推進委員35名と、委任状提出者14名の出席で、平成30年度の決算報告、事業報告、平成31年度(令和元年度)の予算、事業計画、組織表などが討議され、承認されました。



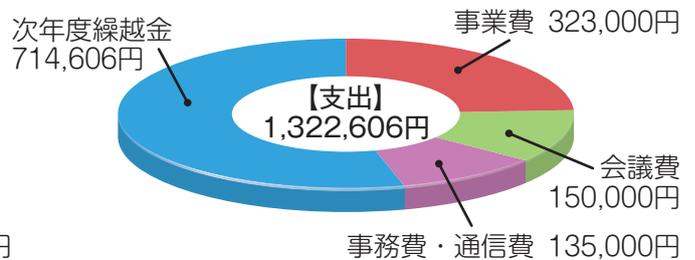
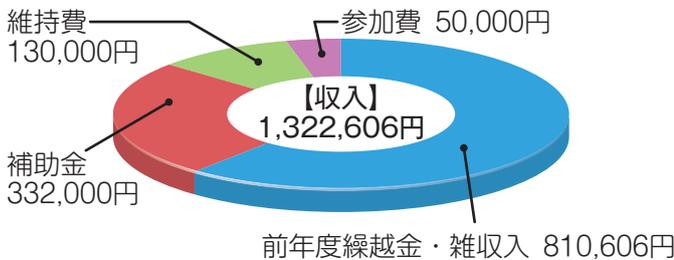
平成30年度決算報告



平成30年度事業報告

1. 児童へのあいさつ、見守り活動
2. 安心生活見守り支援事業
3. ちぐさ福祉ネットワークの広報紙発行
4. ネットワーク会議の開催
5. 高齢者茶話会の開催
6. 他地区ネットワークとの合同研修
7. 歳末たすけあい運動「地域福祉支援事業」

平成31年度(令和元年度)予算



平成31年度(令和元年度)事業計画

1. 児童へのあいさつ、見守り活動
2. 安心生活見守り支援事業
3. ちぐさ福祉ネットワークの広報紙発行
4. ネットワーク会議の開催
5. 高齢者茶話会の開催
6. 通いの場作りへの支援、環境作り
7. 歳末たすけあい運動「地域福祉支援事業」

防災について 考えましょう



1 地震に対するそなえ

近い将来、必ず起こるといわれている巨大地震について考えてみたいと思います。

震度6強の地震では、人は立っていられず、這わないと動くことすらできず、又、投げ出されることすらあります。

屋内では、固定されていない家具の殆どが移動もしくは倒れたり飛んだりします。棚から物が落ち家財が散乱し、ガラスが割れて、はだして避難できません。避難経路をふさがれたりする事のないよう、家具の固定など「寝室の安全対策」を最優先に行いましょう。

2 地震に備えて事前にやるべきことは！

1. 家の耐震診断と補強工事（昭和56年の建築基準法改正以前の建物は危険！）
2. 家具の固定（倒れた家具の下敷きで圧死、又は避難できず死亡）
3. 家族の連絡方法の確認（集まる場所の確認、災害用伝言ダイヤル171の活用）
4. 家族で避難所の確認（千種コミセン、千種小、千種中など）
5. 非常持ち出し袋の準備（内容については、またお知らせします。）
6. 水と食料の備蓄（行政が用意しておくべきだと思わないでください！自分のことは自分で！）
7. 地震保険の加入
8. その他（常用医薬品、保険証、お薬手帳等）

3 3・3・3・7で生き延びよう！

自 助	3分間	自分の家族は自分で守る。（地震の揺れは2～3分間）
近 助	3時間	向こう三軒両隣で家族の見守り。（助かるべき命を助ける）
共 助	3日間	町会等、地域の力の結集。（助かったなら、共に生き延びる）
公 助	7日間	行政機関や自衛隊などの支援の開始。（公助が開始されるまで、各自少なくとも7日分程度の水、食料、生活必需品の備蓄が必要です。）

4 洪水、土砂災害、河川の氾濫に対するそなえ

ここからは、豪雨その他の災害について考えます。千種地区は土砂災害の発生個所はありませんが、養老川氾濫による大規模洪水や、豪雨による浸水被害が心配されます。

市では「警戒レベル」を用いて避難勧告や、避難指示（緊急）などの避難情報を発令します。



警戒レベル5	災害発生情報	すでに災害が発生しています。命を守るための最善の行動をとりましょう。
警戒レベル4	避難勧告・避難指示（緊急）	速やかに避難しましょう。避難先までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所へ避難しましょう。
警戒レベル3	避難準備 高齢者等避難開始	避難に時間を要する人（高齢者、障がい者、乳幼児）とその支援者は避難しましょう。その他の人は準備開始。
警戒レベル2	大雨注意報 洪水注意報	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。
警戒レベル1	早期注意情報	今後、大雨注意報などが発表される可能性があります。災害への心構えを高めましょう。

ちぐさ福祉ネットワークは、こんな活動をしています



千種小でのあいさつ運動



千種フェスティバルで
ふわふわダルメシアン



見守り支援活動



広報紙の編集会議



ネットワーク会議



茶話会でのポッチャゲーム



他小域福祉ネットワークとの合同研修



歳末たすけあい運動の高齢者食事会

千種
こぼれ話

松ヶ島の
キツネのはなし



松ヶ島ふれあい公園

昭和三十年代の終わりまでは、松ヶ島に横山や高山と呼ばれる大きな砂山がありました。今のふれあい公園を中心とした、松ヶ島ニュータウンの地域です。

ここには昔からキツネが住みつき、これにまつわる話がたくさん残されています。昭和三十年の頃は、結婚式はまだ自宅で行つのが普通でした。

松ヶ島のある家で長男の祝言が盛大に行われましたが、祝言に呼ばれた客が、披露宴がお開きになり、良いご機嫌での帰り道、涼風庵というお寺のところまで来ると、そこに見たことのないきれいな娘が立っていました。娘は手招きをしてしきりにこちらの名前を呼ぶので、近寄るとその娘は歩き始め、一緒に歩いたところ、どんどんどこまでも歩き続け、結局一晩中歩かされてしまったといひます。これも涼風庵からすぐ近くの、横山や高山に住むキツネに化かされたのだらうと、語り草になっています。これは、松ヶ島の町会長をつとめた齋藤廣さんの話として記録されています。他にも、蔵の中で子供を産んだキツネに、お婆さんがお粥を何日か食べさせたところ、しばらくしてキツネが鶏を啜えて持



白塚陸橋

つてきたという話も残っています。これもキツネの恩返しとして語り継がれていたそうです。

この砂山も、内房線をまたぐ県道千葉鴨川線の白塚陸橋を作る際に、その盛土用に運ばれ、平らになった跡地が松ヶ島ニュータウンになりました。

「市原市海浜部の民俗話」より抜粋



七月の花の巻

アジサイ「和気あいあい」

「家族」「団欒」など

広報紙「ちぐさ福祉ネットワーク」第3号を発行しました。

編集員一同、「明るく、元気に、楽しく助け合い」を合言葉に今後とも活動してまいりますので、皆様ご協力、ご理解の程、よろしくお願ひいたします。

(編集子)

